

THE MATHEMATICAL SOCIETY OF JAPAN
日本数学会

$$\begin{array}{ccccccc}
 & & & & & & Z_2\{\bar{\nu}_6 + \varepsilon_6\} \oplus Z_2\{i_*[\nu_6^2]\nu_{11}\} \xrightarrow{(\Sigma^9 q_3)^*} [C_{\eta_{12}}, G_2] \\
 & & & & & & \downarrow \beta_* \\
 Z_4\{\sigma''\} & \xrightarrow{\eta_{13}^*} & Z_8\{\bar{\nu}_6\} \oplus Z_2\{\varepsilon_6\} & \xrightarrow{(\Sigma^9 q_3)^*} & [C_{\eta_{12}}, S^6] & \xrightarrow{(\Sigma^8 i')^*} & Z_2\{\nu_6^2\} \\
 \downarrow \partial & & \downarrow \partial & & \downarrow \partial & & \downarrow \partial \\
 Z_4\{\sigma'''\} & \xrightarrow{\eta_{13}^*=0} & Z_2\{i_*\varepsilon'\} & \xrightarrow{(\Sigma^8 q_2)^*} & [C_{\eta_{11}}, \text{SU}(3)] & \xrightarrow{(\Sigma^8 i')^*} & Z_4\{\nu_6^2\} \\
 & & \downarrow \hat{i}_* & & \downarrow \hat{i}_* & & \downarrow \hat{i}_* \\
 & & 0 & \xrightarrow{\cong} & [C_{\eta_{11}}, G_2] & \xrightarrow{(\Sigma^8 i')^*} & Z_2\{i_*[\nu_6^2]\} \oplus Z_{(2)}
 \end{array} \quad (3.14)$$

Here we have used results of [M] that $\pi_{12}(G_2) = \pi_{13}(G_2) = 0$. We need

LEMMA 3.5.

- (1) ([M, Proposition 6.3]) $\partial\bar{\nu}_6 = \partial\varepsilon_6 = i_*\varepsilon'$.
- (2) ([KMNST, Proposition 3.6]) $[C_{\eta_{12}}, S^6]_{(2)} = Z_4\{(\Sigma^9 q_3)^*\bar{\nu}_6\} \oplus Z_4\{\Sigma p_*[\nu_6^2]\}$ and $2 \cdot \Sigma p_*[\nu_6^2] = (\Sigma^9 q_3)^*\varepsilon_6$.

PROOF. We give a proof of (2), because our notations are different from ones in [KMNST]. Consider the following commutative diagram with exact rows:

$$\begin{array}{ccccccc}
 Z_2\{\sigma'''\} & \xrightarrow{\eta_{13}^*=0} & Z_2\{\varepsilon_6\} & \xrightarrow{(\Sigma^9 q_3)^*} & [C_{\eta_{11}}, S^5]_{(2)} & \xrightarrow{(\Sigma^8 i')^*} & Z_2\{\nu_5^2\} \longrightarrow 0 \\
 & & \downarrow \Sigma & & \downarrow \Sigma & & \cong \downarrow \Sigma \\
 Z_4\{\sigma''\} & \xrightarrow{\eta_{13}^*} & Z_8\{\bar{\nu}_6\} \oplus Z_2\{\varepsilon_6\} & \xrightarrow{(\Sigma^9 q_3)^*} & [C_{\eta_{12}}, S^6]_{(2)} & \xrightarrow{(\Sigma^8 i')^*} & Z_2\{\nu_6^2\} \longrightarrow 0
 \end{array}$$

By Lemma 3.4 (2), we have

$$2\Sigma p_*[\nu_6^2] = (\Sigma^9 q_3)^*\Sigma\varepsilon_5 = (\Sigma^9 q_3)^*\varepsilon_6. \quad (3.15)$$

We have $\eta_{13}^*\sigma'' = 4 \cdot \bar{\nu}_6$ by [T2, (7.4)] so that we have the following short exact sequence:

$$0 \longrightarrow Z_4\{(\Sigma^9 q_3)^*\bar{\nu}_6\} \oplus Z_2\{(\Sigma^9 q_3)^*\varepsilon_6\} \longrightarrow [C_{\eta_{12}}, S^6]_{(2)} \xrightarrow{(\Sigma^8 i')^*} Z_2\{\nu_6^2\} \longrightarrow 0$$

Thus the order of $\Sigma p_*[\nu_6^2]$ is 4 by (3.15), and we obtain (2) by the above exact



日本数学会 理事長
坪井 俊

President
Tsuboi Takashi

数学は長い歴史をもつ学問です。日本の現在に至る数学は、明治時代にアラビア数字の記法を導入するとともに、本格的に始まっていますが、当時の発達した和算の素地のうえに日本社会に根付き、20世紀に入って大きく発展しました。特に、20世紀後半からの日本人数学者の活躍は目覚ましく、小平邦彦、広中平祐、森重文というフィールズ賞受賞者を輩出し、2006年に創設された Gauss 賞には伊藤清が選ばれています。世界に認められている日本の数学の発展は、先人たちの努力の賜物でもありますが、数学の重要性を理解していただいた各界の皆様からの支援の結果でもあります。

さて、日常生活と数学がどのようにかかわっているかを意識することは必ずしも多くありませんが、日常使っているものの製造、流通を考えても、情報化社会といわれる今日の日常のコミュニケーションをとっても、それを支える科学があり、それを記述する数学があります。数学は、物を数えること、量を測ることから始まっていますが、厳密な論理と数量に対する汎用性から社会全体を支える基盤となっています。現代の数学研究と多様化した現代社会が必要とする数学は、様々な場面で関連を持っており、新しい数学理論を創りだすとともに、数学理論の応用がますます求められています。

数学の広がり と 日本数学会

日本数学会は、数学の研究を盛んにし、その普及によって学術文化の向上発展に寄与しようとするを目的として設立された社団法人です。前身の東京数学会社設立以来130年、現在の社団法人として60年の歴史を持ち、現在5000人余りの会員を擁しております。現在、数学の研究を支援する様々な企画と実行、講演会・セミナーなどによる数学の普及と啓蒙、教育の改革あるいは数学研究の基盤整備などわが国の数学的力の向上のための提言などの活動を活発に行っております。

日本数学会は数学の研究の発展とその普及につとめ、現代社会における数学の広がりの中なかで、さらなる社会への貢献を続けていこうとしております。皆さまのこれまでのご援助にあつくお礼申し上げますとともに、より一層のご支援をお願い申し上げます。

Figure 5. Topologically hyperbolic action.

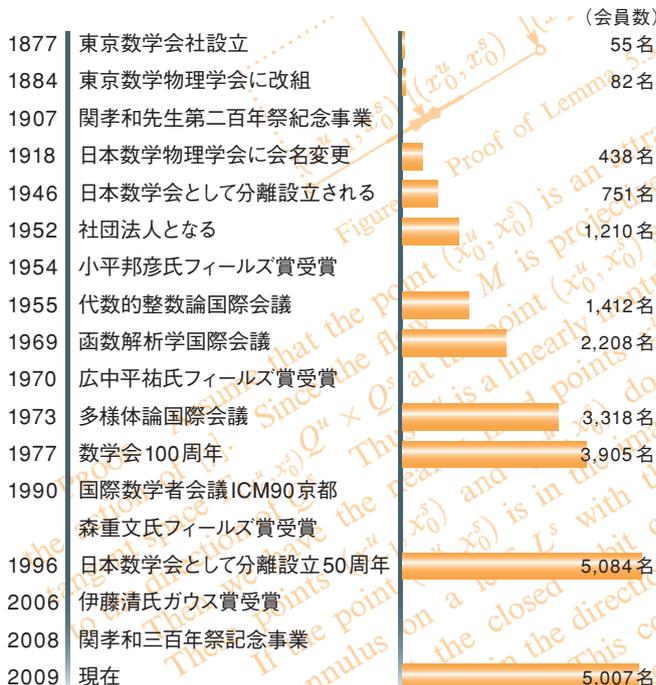
日本数学会のあゆみ

江戸時代に日本で独自の発展をした和算の実力を背景に、日本人は明治時代の初めに新しい数学を容易に吸収し消化したことが知られています。

日本数学会の前身である東京数学会社の創立者達は、時代の息吹の中で諸学の基礎としての数学が重要であることを認識し、欧風の数学の導入に努力しました。それから130年、日本における数学研究は目覚ましく発展し、3人のフィールズ賞受賞者および第1回 Gauss 賞受賞者を輩出するなど、今日では確固とした国際的評価が確立しています。



故 小平邦彦氏 広中平祐氏 森重文氏 故 伊藤清氏



刊 行 物



① 「数学」

「数学」は、日本数学会が設立された翌年1947年4月から毎年4回発行されている邦文誌です。主に日本数学会会員による、数学に関する論説、企画記事、書評、学界ニュースなどを掲載しています。日本数学会会員には無償配布されていますが、会員でない方は岩波書店刊行のものを購入できます。論説の記事は、専門外の人々にも楽しめ、理解できることを目的にした解説記事として書かれており、現在58巻までJSTのJournal@rchive事業によって電子化・無償公開されています。この論説の多くは、英訳され、アメリカ数学会から「Sugaku Expositions」という雑誌名で発行されています。

② 「数学通信」

「数学通信」は日本数学会創立50周年を機に1996年に創刊された会員向けの季刊情報誌です。定期的な記事としては、会報のほか、巻頭言、数学会が主催した市民講演会等の記録、授賞報告、委員会・懇談会報告、会員ニュース、数学教室だより、支部・分科会便り、書評、公募ニュースなどの欄があります。また、その時々会員にとって有益な話題を特集記事として取り上げています。このように「数学通信」は、会員への情報提供あるいは会員相互の情報交換の場としての役割を果たしています。

③ 「Journal of the Mathematical Society of Japan」

日本数学会 欧文誌 Journal of the Mathematical Society of Japan (JMSJ) は、1948年創刊の数学総合誌です。国内外の会員・非会員から幅広く投稿された最新研究論文を、各分野の第一線の専門家による厳格な査読を経て掲載し、わが国を代表する数学季刊誌として年4回会員に配布されています。J-STAGE および Project Euclid でもオンライン公開が行われ、質の高い国際学術誌として広く認知されています。

④ 「Advanced Studies in Pure Mathematics」

Advanced Studies in Pure Mathematics (ASPM) は1983年に創刊され、日本数学会によって主催された国際研究集会など重要な研究集会の報告論文集として、現在、日本数学会によって編集、刊行されています。ASPMは、国際研究集会で発表された研究成果に関する研究論文のみならず、理論の創設者によって著わされたサーベイ的な論文なども掲載しており、これから研究を始める若手研究者や、そのテーマの最新の研究成果に関心のある他分野の専門家にとっても、貴重なレファランズとなっています。海外では、アメリカ数学会とWorld Scientific Publishing社によっても販売されており、2009年5月の時点で54巻が刊行されています。

⑤ 「Japanese Journal of Mathematics」

1924年創刊のJapanese Journal of Mathematics (JJM; 日本数学誌) は、継続されて発刊されている日本の数学欧文誌の中で最も古いものです。日本数学会は、JJMの第3シリーズの創刊にあたり、JJMを「創造性に満ちた研究総説に特化した、権威ある学術誌」として位置づけ、2006年4月に刊行を開始いたしました。高木レクチャーで講演された内容を含め、JJMに投稿された研究総説論文は専門家によって査読され、その後掲載が決定されます。JJMの出版は日本数学会とSpringer社の協力でなされています。なお、第2シリーズ(1975-2005)はJSTのJournal@rchiveによって電子化・無償公開されています。

⑥ 「MSJ Memoirs・数学メモアール」

数学メモアールには、英文と和文と、二つのシリーズがあります。英文シリーズでは、大学院テキストに使用するための講義録や、まとまった一つのテーマについての長編研究論文を刊行しています。和文メモアールは、大学院生をはじめとする若い研究者に、数学の新しい潮流をわかりやすく紹介するモノグラフです。両シリーズとも、純粋数学・応用数学全般を取り扱います。英文シリーズは海外ではWorld Scientific Publishingによって販売されています。

学 術 的 会 合

高木レクチャー

高木貞治先生(1875-1960)のお名前を冠した「高木レクチャー」が、2006年に創設されました。

「高木レクチャー」は、毎年、世界から卓越した数学者を日本に招き、専門分野を越えた数学者や若手研究者・大学院生を主な対象とし、創造のインスピレーションを引き起こすような気概に満ちた研究総説講演を行っていた

だけ、日本発の新たな数学の創造に寄与することを目的としています。

高木レクチャーのブックレットは当日に配布され、それをもとに執筆された研究総説論文が、査読を経た後、JJMに掲載されます。



Prof. P. Malliavin
第3回高木レクチャー



Prof. M. Kontsevich
第5回高木レクチャー

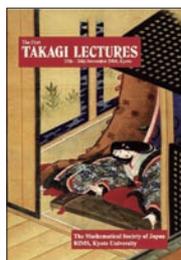


Prof. S. Smale
第1回高木レクチャー



JJM(日本数学誌)のロゴ

このロゴは2005年のJJM存続の危機のときに、当時の理事であった小林俊行氏が、大正時代から連続と続くJJMの伝統を尊重し、さらに、日本から新しい数学を発信するという願いをこめてデザインしたものです。JJMの文字でかたどった富士山は日本発信を象徴しています。



高木ブックレット

年会・秋季総合分科会

毎年、春と秋に日本数学会は大会を開きます。約1500名の数学者が集い、研究の発表や討論を行うものです。大会では、日本数学会賞春季賞、同秋季賞、同建部賢弘賞、関孝和賞、出版賞などの受賞者の発表や授賞式が行われ、総合講演・企画特別講演・各分科会の特別講演など、数学の動きを知る上で欠かせない重要な講演も行われます。大会の際には、市民を対象とする、数学の啓蒙的講演会「市民講演会」や、数学と数学教育の役割について意見を交換する「シンポジウム」が開かれます。

日本数学会季期研究所 (MSJ-SI)

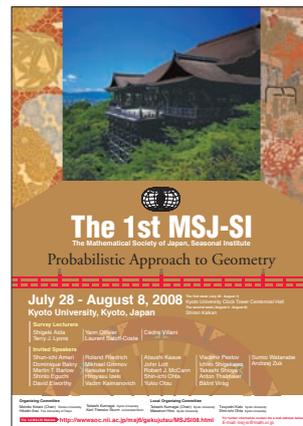
日本数学会は、国際交流や国際研究集会の活動を行っています。

このような活動の一環として、第一線の国外の研究者を招いて日本数学会国際研究集会 (MSJ-IRI) を2006年まで年1回開催しました。2008年からは、これを拡張して発展的に引き継ぎ、日本数学会季期研究所 (MSJ-SI) を開催しています。

とくに、アジアの中の日本という視点から、アジア諸国の数学者との関係を重視し、積極的な交流を推進しています。



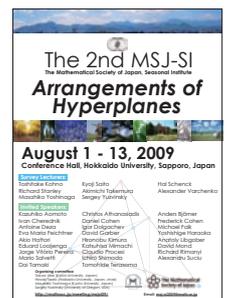
第1回MSJ-SI集合写真(2008年7月29日)



第1回MSJ-SI 2008年7月28日~8月8日
Probabilistic Approach to Geometry 京都大学

第2回MSJ-SI 2009年8月1日~8月13日
Arrangements of Hyperplanes 北海道大学

第3回MSJ-SI 2010年10月18日~10月22日(予定)
Developments of Galois-Teichmüller theory and anabelian geometry
京都大学





「関孝和三百年祭記念 数学 日本のパイオニアたち」
(6ページ参照)

市 民との接点

市民講演会

日本数学会では、春の年会と秋季総合分科会の際、会場校の近くで、高校生、大学生、教師、会社員など一般の市民の方に、数学の楽しさを実感していただくための、講演会「市民講演会」を開催しています。

以下のウェブページより、過去の講演の講演記録とビデオが利用できます。

URL <http://mathsoc.jp/outreach/shimin-index.html>

都合で利用可能でないものもあります。

日本数学会 市民講演会

検索



日本数学会市民講演会 - Windows Internet Explorer の提供元: Yahoo! JAPAN

日本数学会 市民講演会

TOP Page > 一般向けのページ > 市民講演会・湘南セミナー・現代数学入門市民講座・藤岡おもしろ数学教室

市民講演会

2008年秋季総合分科会, 於東京工業大学, 9.23, 14.00-16.30 [詳細の情報]	
今井 淳(首都大学東京)	結び目の数学 (14.10~15.10) 「数学通信」13巻3号の記録, 講演資料・ビデオ
黒川 信重(東工大)	素数からゼータの未来へ (15.30~16.30) 「数学通信」13巻3号の記録・ビデオ
2008年年会, 於近畿大学本部キャンパス内11月ホール大ホール, 3.22, 14.00-16.30 [ポスター]	
日本数学会, 日本物理学会共催 市民講演会	
知念 宏司(近畿大学理工学部)	「誤り」正符号の話 ~情報理論60周年~ (14.00~15.00) 「数学通信」13巻2号の記録・ビデオ
根本 香絵(国立情報学研究所)	「量子情報処理 ~量子で変わるコンピュータと暮らし~」 (15.30~16.30) 「数学通信」13巻2号の記録

日本数学会情報システム運用委員会作成 | TOP PAGE | 会員向けのページ
Copyright (C) 2009- Mathematical Society of Japan

藤岡おもしろ数学教室

関孝和にゆかりのある群馬県藤岡市と日本数学会とは、1994年度の日本数学会関孝和賞創設以来交流が続いています。その一環として、当地の中学生を対象とした講演会「藤岡おもしろ数学教室」を毎年1回開催しており、数学会からは講師を派遣しています。



2007年講師
飯高茂氏



2007年・2008年
藤岡おもしろ数学教室



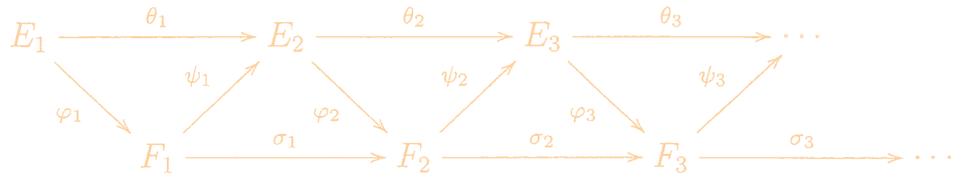
2008年講師
川崎徹郎氏



出前授業

日本数学会では、多くの子供たちに数学を学ぶ楽しさを伝えるために、2004年度より会員を小中高校に派遣する事業を行っています。会員に対して、そのための講師派遣リストへの登録の依頼も継続的に行っています。この事業では、数学会への依頼があれば、出来る限り条件にあう会員の派遣をお世話します。依頼は日本数学会事務局へお願いします。

顕彰事業



日本数学会賞 春季賞・秋季賞

日本数学会は1973年に、故彌永昌吉氏からの寄付金を基金として「日本数学会彌永賞」を設け、1987年まで毎年1名、重要な研究成果をあげた当学会の若手研究者に賞を授与してきました。1987年秋に、故秋月康夫氏の御遺族からの寄付金とその他の寄付金を加えて新たに、日本数学会賞を創立し、従来の彌永賞の趣旨を継承する「春季賞」と、特に優れた業績をあげた当学会の研究者に授与する「秋季賞」を設けました。

その後、故木村俊房氏、故松村英之氏、故丸山滋彌氏、故加藤敏夫氏の御遺族からの寄付金とその他の寄付金も新たに加わっています。



●2007年度
秋季賞受賞者
舟木直久氏
「大規模相互作用系の
確率解析の展開」



●2008年度
春季賞受賞者
高岡秀夫氏
「非線形分散型方程式
に対する大域理論」



●2008年度
秋季賞受賞者
小澤正直氏
「量子情報の
数学的基礎」



●2009年度
春季賞受賞者
小沢登高氏
「離散群と
作用素環の研究」

代数学賞

広い意味での代数学の発展に貢献した研究者に授与される賞です。



●2008年度受賞者(左から)
伊山修氏、谷崎俊之氏、並河良典氏

●2009年度受賞者(左から)
小木曾啓示氏、雪江明彦氏

解析学賞

2002年には「解析学賞」が設けられました。この賞は、広い意味での解析学の発展に貢献した研究者に授与される賞です。



●2007年度受賞者(左から)
会田茂樹氏、菱田俊明氏、平井武氏

幾何学賞

幾何学賞は、1987年に幾何学研究者有志からの寄付金を基金として設けられたもので、広い意味での幾何学の発展へ貢献した研究者に授与される賞です。



●2007年度受賞者(左から)
吉川謙一氏、森田茂之氏

●2008年度受賞者
葉廣和夫氏



●2008年度受賞者(左から)
佐藤健一氏、田村英男氏、林仲夫氏

日本数学会賞建部賢弘特別賞／奨励賞

建部賢弘(1664-1739)は、関孝和の高弟で、独自で三角関数表を作成した人物です。1996年の50周年を記念し、日本数学会建部賢弘賞が創設されました。建部賢弘特別賞・奨励賞の2つの賞に分けられ、特別賞は若くして優れた業績をあげられた人の顕彰を、奨励賞は優れた業績で数学研究を始めた若い人達の奨励をそれぞれ目的として制定されたものです。



●2007年度受賞者
(左から)
瀬片純市氏(奨励賞)
緒方芳子氏(奨励賞)
川北真之氏(特別賞)
逆井卓也氏(奨励賞)
甲斐千舟氏(奨励賞)



●2008年度受賞者
(2列目左から)
富田直人氏(奨励賞)
前川泰則氏(奨励賞)
村井 聡氏(奨励賞)
(1列目左から)
矢野孝次氏(特別賞)
川口 周氏(特別賞)
加藤 淳氏(特別賞)

関

孝和300年祭と 高木貞治50年祭

日本数学会関孝和賞

関孝和(? -1708)は、関流数学の創始者であり、鎖国時代に日本独自の数学を発達させた人物です。日本数学会関孝和賞は、個人または団体を対象として長年にわたり数学の研究業績以外の功績によって数学の発展に寄与し、それを通して学術文化の向上に特に顕著な貢献をした個人または団体に対しこれを授与するものです。



関孝和にゆかりのある藤岡から、賞状と関孝和のブロンズ像が贈られます。



- これまでの受賞者(左から)
1995年 故 谷口豊三郎氏
1996年 Prof.F.Hirzebruch
2006年 The Japan-U.S. Mathematics Institute
2007年 Institut des Hautes Études Scientifiques

出版賞

2004年度には「出版賞」が設けられました。この賞は著作活動により数学の研究・教育・普及に顕著な業績をあげた個人または団体を顕彰する賞です。



●2008年度 出版賞受賞(左から)
北野武氏(代理・伊従淳一氏)、大竹進氏



●2009年度 出版賞受賞(左から)
筑摩書房「ちくま学芸文庫 Math & Science」
早川書房「数理を愉しむシリーズ」
高瀬正仁氏

2008年は、関孝和先生が物故せられてから三百周年でありました。二百年忌の1907年には、本会の前身である東京数学物理学会が関孝和先生の二百年紀祭を祝賀し、出版事業、講演会を行ったという実績もあり、今回、日本数学会は関孝和三百年祭の一翼を担うことになりました。すなわち、7つの学協会代表を含む関孝和三百年祭記念事業実行委員会に人的、財政的支援を行い、関孝和三百年祭記念事業を成功させました。

特に、東京・上野の国立科学博物館において、2008年11月22日から2009年1月12日まで、日本の科学者技術者展第7回として、「関孝和三百年祭記念 数学 日本のパイオニアたち」を開催し、約7万人の入場者があり大盛會でありました。関孝和先生を始めとする和算家(吉田光由、建部賢弘、松永良弼、内田五観)に加えて近現代の数学者、菊池大麓、高木貞治、小平邦彦(敬称略)の展示を行い、日本の数学の約四百年間を振り返り、高レベルの伝統があること、数学が如何に人間社会の基盤になっているかを社会に広める役割を果たしました。

日本の数学の近代化において、高木貞治先生の存在は非常に大きなものがあります。先の展示会でも、「世界的な業績を残した近代日本の数学者—高木貞治」と紹介しています。高木貞治先生は1960年2月28日に物故せられ、2010年は、没後50周年にあたります。日本数学会は、今年度を、高木貞治50年祭年として、記念事業を行うこととなりました。この事業の目的は、高木貞治先生の事績を振り返り、顕彰し、次世代育成に資することで、そのために、伝記・業績再調査(数学的・社会的影響を含む)事業、出版事業、展示会、講演会、その他の行事を行います。

●高木貞治先生略年譜●

- 1875(明治8年) 岐阜県大野郡数屋村に誕生
- 1891(明治24年) 京都の第三高等学校に入学
- 1894(明治27年) 19歳で東京帝国大学理科大学数学科に入学
- 1898(明治31年) 文部省派遣留学生として渡独、ベルリン大学に席をおく
- 1900(明治33年) 春、ゲッチンゲン大学に移りヒルベルト教授に出会う
- 1901(明治34年) ゲッチンゲンを出発し、12月4日、帰国
- 1903(明治35年) 「ガウスの数体の上の虚数乗法論」により理学博士の学位取得
- 1904(明治36年) 東京帝国大学理科大学教授
- 1920(大正9年) 「相対アーベル数体の理論について(高木類体論第一論文)」発表
- 1922(大正11年) 「任意の代数体における相反定理について(高木類体論第二論文)」発表し、高木類体論を完成
- 1925(大正14年) 帝国学士院会員となる
- 1932(昭和7年) スイスのチューリッヒでの国際数学会議で副議長を務める
- 1936(昭和11年) フィールズ賞が創設され、第一回選考委員に選出される
- 1940(昭和15年) 東京帝国大学定年退官、名誉教授となる
- 1940(昭和15年) 第2回文化勲章受章
- 1951(昭和26年) 1951(昭和26)文化功労者となる
- 1955(昭和30年) 1955(昭和30)「代数的整数論国際シンポジウム」が日本で開催され、名誉議長を務める
- 1960(昭和35年) 2月28日、84歳で逝去、勲一等旭日大綬章受章
- 2006(平成18年) 第1回高木レクチャー開催、以後年に2回開催



日本数学会の概要

本学会の正会員は数学の研究者ばかりではなく、教育者、学生などの数学に興味を持つ方々です。また、賛助会員の制度があり、本学会の事業に援助をして下さる法人と個人に加入していただいております。2009年度の会費は次の通りです。

正会員会費…年額18,000円
賛助会員会費…一口年額30,000円

大学に在籍する学生会員及び高齢の会員には会費割引制度があります。

高齢会員(70歳以上・在会10年以上)…年額12,000円
学生会員(在学証明書送付者)…年額9,000円

2005年4月から在会30年以上で年齢75歳以上の会員に対し会費を免除する名誉会員制度が始まりました。

会員には、邦文誌「数学」(季刊)「数学通信」(季刊)、欧文誌Journal of the Mathematical Society of Japan(季刊)を配布しています。(ただし名誉会員には「数学通信」と欧文誌JMSJの電子版のみ)

外国数学会の交換会費制度があり、現在、アメリカ数学会、フランス数学会、ニュージーランド数学会、韓国数学会、ロンドン数学会、ドイツ数学会、オーストラリア数学会、スペイン数学会、チュニジア数学会、中華民国数学会、クロアチア数学会と交換協定を結んでいます。

入会手続きについては、本会またはお近くの大学の数学教室でおたずねください。

名称 社団法人/日本数学会(The Mathematical Society of Japan)

事務局 〒110-0016 東京都台東区台東1-34-8 tel.03-3835-3483
(34-8, Taito 1-chome Taito-ku Tokyo 110-0016, Japan)

URL <http://mathsoc.jp/>

目的 数学の研究を盛んにし、またその普及をはかり、関係諸部面とも協力して学術文化の向上発展に寄与することを目的とする

- 事業
1. 学術的会合の開催
 2. 機関誌および図書の刊行
 3. 数学に関する図書および雑誌の収集整備
 4. その他目的を達成するために必要な事業

学術的会合の予定

2009年度秋季総合分科会
2009年9月24日(水)～9月27日(日)
大阪大学

第7回高木レクチャー
2009年11月21日(土)～11月23日(月)
東京大学大学院数理科学研究科

2010年度年会
2010年3月24日(水)～3月27日(土)
慶應義塾大学

2010年度秋季総合分科会
2010年9月22日(水)～9月25日(土)
名古屋大学

2010年度高木レクチャー 春と秋に開催予定

第3回MSJ-SI 2010年10月18日(月)～10月22日(金)[予定]
京都大学
Developments of Galois-Teichmüller theory
and anabelian geometry

2011年度年会 早稲田大学
2011年度秋季総合分科会 信州大学



事務局所在地

蔵前橋通り南側で、台東一丁目交差点から、鳥越一丁目の間にあります。

交通アクセス

JR線

秋葉原駅から徒歩約10分
御徒町駅から徒歩約15分

東京メトロ(旧営団地下鉄線)

日比谷線秋葉原駅から徒歩約8分
日比谷線御徒町駅から徒歩約10分
銀座線末広町駅から徒歩約8分
(末広町駅から蔵前橋通りを東の鳥越神社の方向に)

都営地下鉄

大江戸線新御徒町駅から徒歩約7～8分
(駅から南へ竹町公園を経て蔵前橋通りへ)

日本数学会では、理事会を中心に日本における数学にかかわる諸問題を検討し、時に応じ声明を出しています。数学会が出した声明は上記の数学会サイト内のURL(<http://mathsoc.jp/proclaim/>)から参照できます。